

1 「生きる力」を育む知・情・意・体の調和的発達を図る保・幼・小・中学校教育を推進する NO 1

教育委員会				
主管	重点項目	努力事項・施策	具体的な取組内容及び成果	課題及び今後の取組
学校教育課	① 新学習指導要領に対応した教育課程の編成を図る	移行期間の教育課程の編成と授業時数の確保	<ul style="list-style-type: none"> 各校移行措置期間に適切に対応した教育過程を編成し、実施した。 小学校においては5・6年生に35時間の外国語活動を位置付け、年間計画に従って実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校においては24年度からの全面実施に向けて教育課程の編成を行う。
		身に付けたい力を明確にした学習指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> 各校において、新学習指導要領と児童生徒の実態から現職教育を中心に研究と教科指導に積極的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の成果と課題をもとに、各校の研究を推進する。 児童生徒の学ぶ意欲と思考力・判断力・表現力等を育成する指導の充実を図る。
		町ALTの配置	<ul style="list-style-type: none"> 町単独ALT1名を配置し、綾南中学校を拠点校として小・中学校に計画的に派遣した。 事前調整により学校間の格差が生じないよう配慮した。 	<ul style="list-style-type: none"> 各校において年間計画とALT派遣を調整して、効果的な活用を促すとともに、幼・保との交流活動に努める。
		新学習指導要領に対応した学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 小学校理科・算数において改訂内容を確認して、必要な教材・備品については補助事業を活用して整備した。 	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領の改訂内容を十分理解して、学習環境の整備に努める。
	教育委員会評価委員評価及び意見			
	A	<p>○新学習指導要領を直前にした移行期間の教育課程の編成とその取り組みは、小学校における外国語活動の時数確保と現職教育の充実に積極的に取り組んでいる。町ALTの配置に苦慮しながらも、効果的な活用に努めていた。また、新学習指導要領に対応した教材・備品の整備にも配慮したことは評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 移行期は大変であるが、児童生徒のために学習環境及び学習指導の充実を望む。 町ALTの配置について、保・幼との交流活動を是非実践してほしい。 		
教育委員会				
主管	重点項目	努力事項・施策	具体的な取組内容及び成果	課題及び今後の取組
学校教育課	② 児童生徒の実態に応じたきめ細やかな指導の充実を図る	各種学力調査(全国・県・町)の結果分析を生かした学習指導と授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 小学6年と中学3年において全国学力・学習状況調査を、小学1から6年、中学1・2年において町学力調査を実施した。 各種学力調査の結果分析を行い、授業改善に生かした。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も各種調査結果を分析し、課題の把握と指導改善に生かしていく。また、指導の成果についても明確にしていくことが大切である。
		少人数指導の実施	<ul style="list-style-type: none"> 中学校2校・小学校4校において少人数指導教員を配置し、指導体制の工夫と授業改善を図った。積極的な少人数指導の授業公開により保護者の理解も深まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科・学年ごとの少人数指導の成果と課題を明確にした上で、より一層指導体制や指導方法を工夫し、個に応じた指導の充実を図る必要がある。
		町講師の配置	<ul style="list-style-type: none"> 学校の実態に合わせて、町講師を配置し、教科指導の充実に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 講師の不足により教科に応じた講師配置が十分対応できなかった時期がある。広く募集を周知し、人材確保に努める必要がある。
		パソコンサポートの充実	<ul style="list-style-type: none"> サポート日数を小学校4日/月、中学校3日/月とし、児童・生徒の学習や教職員の校務サポートに努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 校務システム、ICT機器活用による児童・生徒の学力向上、教職員の負担軽減のために、教職員一人一人のICT活用能力を向上させる視点に立ったサポート体制の確立が必要である。
	教育委員会評価委員評価及び意見			
	A	<p>○全国学力・学習状況調査を積極的に小学校・中学校で実施し、その結果分析を授業改善に活かしていた。少人数指導教員や町講師を配置し、指導体制の充実を図っている。児童生徒の実態に即したきめ細かな指導充実がなされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 講師の配置について、町として人材確保に努めてほしい。 少人数指導は教師と児童生徒の信頼関係も深まり、指導の充実を図ることができると考える。 少人数指導による学力の底上げに期待したい。 		

教育委員会				
主管	重点項目	努力事項・施策	具体的な取組内容及び成果	課題及び今後の取組
学校教育課	③ 個々のニーズを把握し、適切な指導や支援を行う	町特別支援教育連携協議会の開催	委員を委嘱し、年間3回の協議会を開催した。事例研究・実態等の協議や専門講師による研修を通して学校・教育委員会・関係機関の連携を深めることができた。・中讃特別支援教育連携協議会の情報も伝えている。	・今後も町における特別な支援が必要な児童生徒の実態や課題を共有しながら連携を深めていく必要がある。
		町生活支援員の配置	・各校の実態に応じて各校1名以上の生活支援員を配置し、児童生徒の支援に努めた。重点校には増員してより効果的な支援体制を整え、個々の児童生徒の学力向上につながった。	・各校からの要望は高く、今後も継続して配置する必要がある。
		町一貫性教育における連携	・特別支援教育部会において、事例研究や専門的な講義を通して、保育所・幼稚園・小学校・中学校の連携と指導力の向上を図った。	・校種間の連携とともに、個々の指導力の向上を目指した部会となるよう研修を推進する。
		通級指導教室の設置	・昭和小学校に通級指導教室を開設した。一人一人の実態に応じた指導や支援を行なうことで学習面・意欲面での成果が表れている。	・通級指導教室の目的・内容等を保護者・地域にも広く周知していく必要がある。
		A	<p>○町独自の特別支援教育連絡協議会を積極的に開催し、情報の共有化を図った。現場の実態に即して生活支援員を十分に配置して対応した。また、昭和小学校に通級指導教室を開設し、学習支援を整備した点は高く評価できる。</p> <p>○学校・教育委員会・関係機関の連携を深め、町生活支援員の配置により適切な指導ができています。</p> <p>・個人情報に配慮しつつ、個の事例について専門家のみならず、学校全体での共通理解が肝要である。また、地域・家庭に理解を求める努力も必要である。</p> <p>・生活支援員は大変重要であり、今後さらに充実させる必要がある。</p>	
教育委員会				
主管	重点項目	努力事項・施策	具体的な取組内容及び成果	課題及び今後の取組
学校教育課	④ 一人一人の人間力を豊かにする道徳と保健体育指導の充実を図る	道徳の日の充実	・各校「道徳の日」を通して、道徳の授業公開を行い家庭との連携を図ったり、実践事例を展示して保護者や地域への啓発をしたり推進に努めている。	・より一層道徳の時間の指導の充実を図るとともに、計画的に地域・家庭との連携を深める。
		体力・運動能力調査の分析・活用	・各校において、調査の分析をもとにたくましい体づくりに取り組んでいる。 ・町一貫性教育研究会体育部会において、町における児童生徒の共通課題や指導方法について協議して実践につないでいる。	・町一貫性教育研究会体育部会からの町全体の課題と各学校における実態を十分把握して、指導を工夫する。
		小児成人病予防対策の実施	小学校4年生の希望者を対象に予防検診(採血)を実施した。受検者(97.4%)のうち約25%が要指導・要精検が必要であった。 ・低身長、軽体重についても指導があり、保護者に病院への受診を勧奨した。	・コレステロール上昇・肥満の診断を受けた児童が多く(要受診約16%)、家庭での食生活管理、運動について改善指導に努める。・近年肥満診断による要受診者が増加傾向にあり、予防のため日常生活習慣の指導を徹底する。
	A	<p>教育委員会評価委員評価及び意見</p> <p>○学校行事の中で、保護者とともに地域の人達と関わることは道徳性を高めることにつながっている。</p> <p>○町一貫性教育研究会体育部会は、学校の実態に応じた情報提供と指導方法の充実を目指して、協議を尽くした。</p> <p>・道徳の日の充実について、保護者や家庭の意識改革につながるように、さらに地域・家庭との連携を深めてほしい。</p> <p>・道徳教育と保健体育指導の充実は非常に大切な部分であり、より一層地域・家庭への啓発が必要である。</p> <p>・一人一人の人間力を豊かにする道徳という言葉はよいが、型に入れたやり方より実態を把握することが第一ではないかと考える。</p> <p>・小児成人病予防については、今後の指導に期待する。</p>		

教育委員会					
主管	重点項目	努力事項・施策	具体的な取組内容及び成果	課題及び今後の取組	
学校教育課	⑤ 地域ぐるみのあいさつ運動、温かい声かけ運動を実施する	あいさつ運動の実施	<ul style="list-style-type: none"> 各校において工夫したあいさつ運動が実施されている。 全国学力・学習状況調査結果から、小学校・中学校ともに全国平均を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各校において児童生徒の自主的・自発的意識を高める指導の工夫と家庭への継続的啓発が大切である。 	
		愛のひと声運動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 民生児童委員協議会において、地域ごとに実態や取組について情報交換し、関係機関の連携を図りながら推進に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> さらに地域において推進できるよう各種団体に協力を依頼する。 	
		教育委員会評価委員評価及び意見			
		B	<ul style="list-style-type: none"> 各校ともあいさつ運動は実施されているが、その方法はマンネリ化していないか。子ども達との対話の場で新しい方法を見つけることも有効である。 最近、綾川町内の小中学生のあいさつが以前に比べて消極的な傾向にあるように感じている。各校において、地域ぐるみの挨拶運動がさらに積極的になるような取り組みが望まれる。学校、地域で子どもを育てる意識を喚起したい。 まずは家庭から家族同士のあいさつが大切であり、大人から子どもへと温かい声かけを継続していく必要がある。 あいさつ運動の実施について、保護者が子どもの手本となっているかどうか考える必要がある。 		
教育委員会					
主管	重点項目	努力事項・施策	具体的な取組内容及び成果	課題及び今後の取組	
学校教育課	⑥ 家庭と連携した食育を推進する	「早寝早起き朝ごはん」運動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 各校において、基本的な生活習慣を身につける指導が重点的に行われている。 朝ごはん摂取率は、全国学力・学習状況調査結果から、小学校・中学校ともに全国平均を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各校において日常的な指導の継続と、家庭への啓発をさらに推進していく必要がある。 	
		「弁当の日」の実施と地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「弁当の日」については、小学校5校、中学校1校で実施して成果をあげた。 月1回の献立会を通して野菜業者と旬の野菜・価格について情報交換するとともに、県産の食材を積極的に利用した。(平均36%) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の年間計画に基づいて計画的に進めていくことが大切である。 地場産物使用率33%の目標を常時達成できるよう献立会を運営するとともに、児童生徒にも積極的に地場産物を紹介し、関心を高める。 	
		栄養教諭等による指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 各校において、食に関する指導に係る年間計画が作成されるとともに、栄養教諭・学校栄養職員を活用して食に関する指導が給食時間や学級活動等を中心に計画的に行なわれた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の年間計画に基づき、計画的・効果的に指導していく必要がある。 	
		躰指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい食生活の形成を目指して、各校において実態に応じた指導が行われた。 	<ul style="list-style-type: none"> 身に付けさせなければならないことを明確にするとともに、地域や家庭との連携をさらに深めて、ともに子どもを育てる体制で推進する。 	
教育委員会評価委員評価及び意見					
A	<ul style="list-style-type: none"> ○朝ごはんの摂取率が全国平均に比して高いことは大きな成果である。弁当の日も定着し、地産地消の推進が効を奏している。 ・躰指導に関しては、保・幼・小・中学校が連携して早い段階から家庭が基本であることを保護者に認識させる必要がある。 				

教育委員会				
主管	重点項目	努力事項・施策	具体的な取組内容及び成果	課題及び今後の取組
学校教育課	⑦ 問題行動や不登校問題への対応を図る	スクールカウンセラーや社会福祉士の配置	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校を拠点としてスクールカウンセラーを配置するとともに、小学校には実態に応じて社会福祉士を配置して支援体制の充実を図った。 ・各校のケース会において、指導助言していただくとともに、保護者の対応にも努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より一層校内における効果的な活用を図る。 ・定期的に連携の場をもち、現状の把握と課題の共有化を図った上で、問題行動等の未然防止に努める。 ・横と縦のより一層の連携を図り、児童生徒の健全な育成を目指した指導を充実する。 ・今後も児童生徒の自尊感情や自己肯定感・有能感を高める指導や支援に努める。 ・関連事項等についての情報提供を行なう。
		関係機関との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校生徒指導連絡会を年3回開催し、警察・少年育成センターと情報交換したり、指導について協議したりして連携を深めた。 ・各校とも事故・事件の未然防止に努めるとともに、関係機関への早期連絡により良好対応に努めた。 	
		町一貫性教育による異校種間の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・健全育成部会を中心に情報交換を行い、各校の実態と指導内容について理解が深まるとともに、連携も図られた。 	
		自助努力の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・各校において、一人一人のよさを見つけ、認め合ったり、賞賛したりする場を積極的に取り入れて、自尊感情や自己肯定感を高める支援をしている。 	
	教育委員会評価委員評価及び意見			
	A	<p>○子どもの問題行動や不登校問題は、最近増加傾向にある。スクールカウンセラーや社会福祉士など支援体制の充実を図っていることは、評価に値する。今後はさらに自尊感情や自己肯定感を高める指導体制が望まれる。</p> <p>○関係機関との連携強化により地道な努力と指導がなされている。</p> <p>・時代によって変わる保護者や子どもの考えをいち早く把握することも大切であり、変化に対しての先生方の努力も望む。</p>		
教育委員会				
主管	重点項目	努力事項・施策	具体的な取組内容及び成果	課題及び今後の取組
学校教育課	⑧ 勤労観の涵養と自己有用感の育成を図る	職場体験活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会や地元企業の協力により、各中学校2年生が実施した。(綾上中学校35名14事業所 綾南中学校197名47事業所) 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内に大型店舗が開店し、地域振興が図られ活気があるが、職場体験を通して、労働の大切さや尊さを身をもって感じるとともに、今後に生かしていける取組を考える。 ・各校において、実態に応じて工夫した取組を継続していく必要がある。
		家事分担の積極的推進	<ul style="list-style-type: none"> ・各校において、お手伝いを日常生活に位置付けたり、長期休業日を中心に奨励したりして推進した。 	
		向上心の喚起と達成感・成就感の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・各校において、児童生徒が意欲をもち主体的に行動したり、個々のよさや伸びを認め合ったりする場を設け指導の充実を図っている。 	
教育委員会評価委員評価及び意見				
	B	<p>○地元の協力と支援のもと、職場体験を通して貴重な社会勉強ができています。今後に生かしていける取組に期待する。</p> <p>・お手伝いや勤労意識、さらには一人一人のやる気が高まる指導の充実を図るべきである。</p> <p>・職場体験活動は大変重要であると考えられる。多種多様の職場があることも知ってほしい。</p> <p>・個々のよさを認め合うということはよく理解できるが、その認め合うプロセスが見えていないと考えられる。</p> <p>・己をしっかり見つめる力を付けさせたいと思う。</p>		

教育委員会				
主管	重点項目	努力事項・施策	具体的な取組内容及び成果	課題及び今後の取組
学校教育課	⑨ 学校の説明責任を明確にした学校経営と 学校改善に生かす学校評価の充実	学校関係者評価委員の委嘱	・各校5名の学校関係者評価委員を委嘱し、各校学校関係者評価委員会において職責を果たしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルの重点を改善・実践に置き、実効性のある学校評価に努める。 ・計画に基づいた学校評価をもとに学校改善を推進するとともに、積極的に情報提供を行い、地域や家庭のより一層の理解と支援を求める。 ・学校課題に基づいた評価項目の重点化と見直しを図る。
		自己評価・学校関係者評価の公表	・各校の自己評価書・学校関係者評価書については、学校便りやホームページにて公表され、保護者や地域の信頼につながっている。	
		学校公開と情報提供	・各校自由参観・オープンスクールを設定し、積極的に学校を公開するとともに、学校便り等各種広報により情報提供に努めている。	
教育委員会評価委員評価及び意見				
A			<p>○学校関係者評価委員の職責が果たされ、現場の学校改善に活かされている。その評価書の公開もなされ、学校課題が明確化し、現実的な対応に繋がっている。</p> <p>・個人情報に最大の配慮をしつつ、より一層の情報公開を推進し地域の理解を求めてほしい。</p>	
教育委員会				
主管	重点項目	努力事項・施策	具体的な取組内容及び成果	課題及び今後の取組
学校教育課	⑩ 地域と連携した幼児児童生徒の安全確保に努める	学校配信メールの導入	・児童生徒の安全・安心対策等として、今年度8月に学校からの配信が可能な学校配信メールシステムを導入した。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への積極的な登録勧奨を行い、加入者の増加を図るとともに、保護者の求める情報ニーズを的確に把握していく必要がある。 ・学校ボランティアの活用や高松西警察署の交通安全・啓発活動を活用して、交通安全意識の向上を図る。
		地域ボランティアによる登下校の見守り	・民生委員や婦人会等各種団体の協力をいただいて登下校時の見守りが行なわれている。	
		教育委員会評価委員評価及び意見		
A			<p>○児童生徒の安全・安心対策としての学校配信メールの導入は、保護者のニーズに対応したものであり、大きな成果を果たしている。地域ボランティアも増加し、地域との連携が活性化している。</p> <p>○よく取り組めていると評価する。児童生徒の安全に対する自覚の啓発にも努めてほしい。</p> <p>○目まぐるしく変化する生活環境で児童生徒に安全・安心を与えることは重要である。地域ボランティアの協力もあり、見守りが行なわれることは大変評価できるが、保護者も感謝の念が大切である。</p>	

教育委員会				
主管	重点項目	努力事項・施策	具体的な取組内容及び成果	課題及び今後の取組
学校教育課	⑪ 教育のプロを自認できる教職員の育成を図る	各種研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> 小学校外国語活動の推進のため、町ALTを講師として「英語活動研修会」を開催したり、新学習指導要領の実施に向けて、小・中学校の評価にかかわる教職員を対象に「学習評価にかかわる研修会」等を実施し、教職員の指導力向上に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課題や町内の実態に応じた研修会を計画的に実施して指導力の向上を図る。
		教育設備等の充実	<ul style="list-style-type: none"> 綾南中学校の楽器整備(H19~22)が完了し、音楽活動の充実が図られている。 全小学校の耐震工事及び大規模改造工事は全て完了している。 綾上中学校の耐震・大規模改造工事については、22~24年度に計画・施行する。 綾南中学校の改築工事については、周辺調査を実施し基本計画を作成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 綾南中学校の改築工事については、教育環境の充実を図るため、調査・研究を行い早期の完成を目指す。 各校の空調整備については早期に整備する必要がある。
	教育委員会評価委員評価及び意見			
	A	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の指導力向上を目指した各種研修会が積極的に行われ、教職員の意識と能力が向上している。 ○教育設備等に関しては、小学校の耐震工事が完了し、中学校の耐震・改築についても計画・実施に向けて進んでいる。 ・教職員の指導力の向上は児童生徒の学力向上につながっている。今後より一層各種研修会の内容の充実を期待する。 		
教育委員会				
主管	重点項目	努力事項・施策	具体的な取組内容及び成果	課題及び今後の取組
学校教育課	⑫ 保幼小中学校連携による教育実践の更なる充実を図る	小・中学校の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 異校種間の授業参観や経営説明により関係する児童生徒の実態把握とともに指導のあり方について共通理解することができた。 小中学生指導連絡会等により、連携を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> より一層異校種間の連携を図り、それぞれの発達段階や学校等の実態と教育内容を十分理解して、見通しを持った教育を推進していく。
		保・幼・小学校の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 各種研修会や、授業参観・保育参観における幼児と児童、教師同士の交流を通して連携が図られた。 	
		町一貫教育研究会の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「学習部会」「保健部会」等、9の部会において情報交換や研修を行い、各校種における現状理解や指導・支援について共通理解することができた。 	
	教育委員会評価委員評価及び意見			
B	<ul style="list-style-type: none"> ・保・幼・小・中学校の連携強化が図られているが、保護者の対応も含めて、子どもの発達段階や学校の実態を十分考慮した実質的な連携強化の必要性を強く感じる。 ・校種を超えた研修会は連携強化と教員の指導技術の向上にとっても重要である。 ・異校種間の連携の具体的内容を検討するためには、双方向の共通理解と意見交換の充実が望まれる。 			